

## 1.はじめに

9月18日～19日にかけて日本付近は大陸から進んできた移動性高気圧に覆われ、19日にはダクト発生により9 - 0エリア間オープンが確認されました。

またエマグラム解析から札幌、根室、仙台、秋田、輪島の上空でダクトが発生していたと推定されました。

気象解析によりダクト発生条件と照らしあわせてダクトが発生しやすい状況であったか検証していきたいと思えます。

### 9月19日のダクト発生域(推定)



### <19日のオープン情報>

ダクト発生により9～0エリア間のオープンが確認されました

JE9VJZ局からの情報・・・22:25佐渡59+60dB!

JM7BWU局からの情報・・・20時過ぎにビーターチック  
どうもイマイチのようです  
佐渡がやっと聞こえる  
程度でした。

## 2.気象解析からダクト条件に照らしあわせ検証を行う

(1)勢力を強める高気圧に覆われて地上気圧や上空の高度が上昇し、乾燥空気による下降気流が卓越していたか?

地上天気図について着目します。

18日から19日にかけて日本付近は勢力を強めつつある移動性高気圧に広く覆われました。

高気圧の中心気圧は18日21時には1022hpaでしたが、19日21時には1024hpaへと少しだけ上昇しました。

850hpa面の高気圧に伴う1,500m等高度線や700hpa面の3,180m等高度線の広がりに着目すると大きな変化は無いかわる狭くなっており上空の高気圧は少し弱まる傾向であったと見られます。

上空の乾燥空気の流れ込みについて着目します。

北日本から東日本にかけての広い範囲で乾燥空気に覆われたことがわかります。

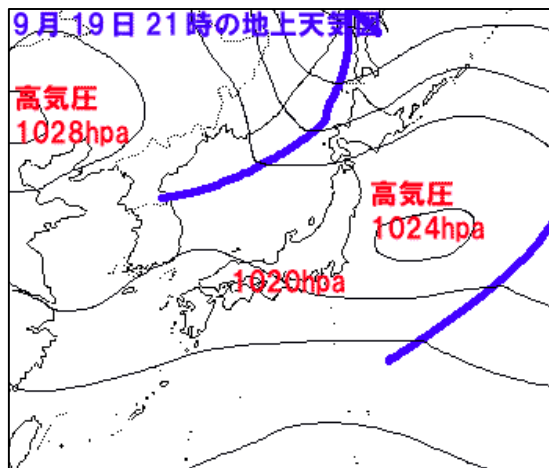
札幌、根室、仙台、館野の湿数は10 を超えています。

700hpa面の鉛直流について着目します。

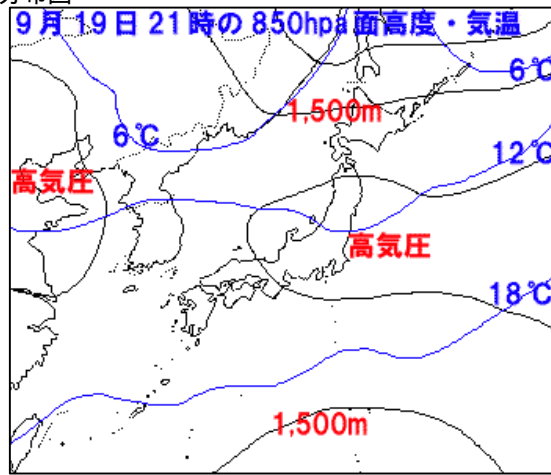
北日本から東日本にかけての太平洋側を中心に下降流域に覆われたことがわかります。

以上の解析から、北日本から東日本にかけては高気圧に伴う乾燥空気の流れ込みと下降流の発生によってダクトが発生しやすい状態にあったと考えられます。

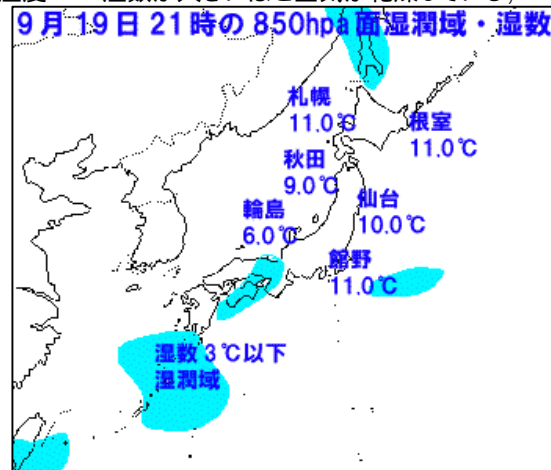
### <地上天気図>



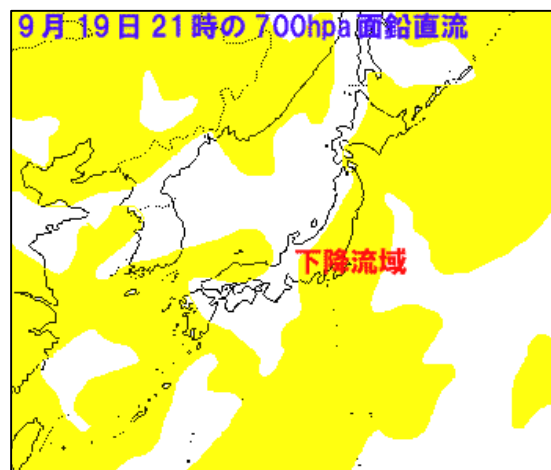
< 850hpa高度・気温分布図 >



< 850hpa湿数図・・・上空約1,500m付近の空気の乾燥状態 >  
(湿数 = 気温 - 露点温度 ……湿数が大きいほど空気が乾燥している)



< 700hpa鉛直流図 >

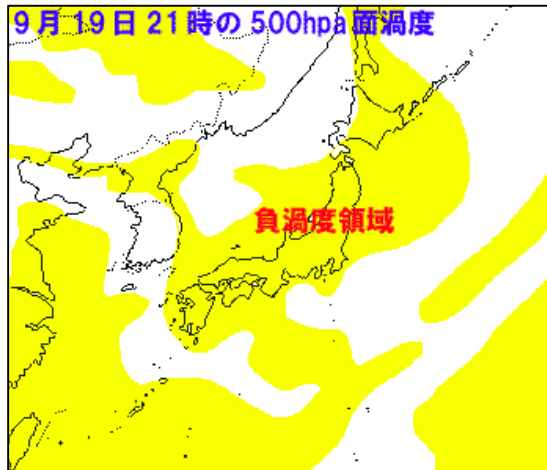


(2) 中層大気である500hpa渦度図から負渦度領域に覆われていたか？

中層大気の500hpa渦度図を見ます。

渦度は(北半球では)高気圧性の流れが生じているときには負渦度領域として表現されます。

19日の本州付近は負渦度領域に広く覆われていたことがわかります。



以上の解析結果から

19日は北日本から東日本にかけてダクト発生条件がそろいやすかったと考えられます。

### 3. 考察

今回のオープン確認結果と気象解析によって、高気圧に覆われて乾燥空気による下降流が発生するとダクト発生条件がそろいやすくなることが再確認できました。

北日本でのオープン情報がありませんが北日本を中心にダクトが発生しやすかったと考えられます。ミッドナイトオープンであった可能性もあります。